

『美しい私の死に方』

◇ 登場人物

- ・ 男1 (志喜屋)
- ・ 男2 (兼島)
- ・ 男3 (喜久山)

男1、自力では立つことも座することもできず、今にも死にかけている。

男2、跪きながら、男1の上体を膝で支えている。

男1 なあ……

男2 どうした？

男1、震えた手で胸元を探り、手紙のようなものを取り出す。
辺りをチラッと確認する。

男1 これを……

辺りをキョロキョロ確認する。

男2 なに？ これをどうすればいいの？

男1 え？ こ、これを……その、

男2 なに？

男1 ちよ、

男2 なに？ ちゃんと言ってよ！

男1 も、ちよつ、ま、

男2 はい？

男1 いや、

男2 なに？ なんなの？

男1 ……いや、まあなんていうの、

男2 うん。

男1 ……。

男2 なに？

男1 ごめん……

男1、立ち上がり辺りをキョロキョロ確認する。

男1 あ！

男1、先程までの体勢に戻る。

男2 なに？

男1 きたきたきた！ いくよ！

男2 なにが？

男1 (手紙を取り出し)こ、こ、

男3、ドタドタ走ってやってくる。

男1、息絶える。

間

男2、男1の頬を叩きながら、

男2 おい……おい！

間

男1、急に立ち上がる。

男2、動きがしばらく止まる。

男1 (男3に) 遅いだろ！

男3 ごめん！

男1 なんでよ？

男3 は？

男1 なんで遅いば？

男3 混んできた。

男1 なにが？

男3 道。

男1 意味よ。

男3 なにがよ？

男1 意味よ、遅れんなじらー！

男3 (時間を確かめながら) は、でも、そんなにあれさ、

男1 え、やー人の人生なんだと思ってるば？ その遅れが全部アレど！

台無しど？

男3 は、でもちゃんと死んでるさ。

男1 死ねばいいってもんじやないやつし。

男3 って言われてもよ、……

男1 っていうか、あれだろ。あっちで待つとくって話だったやつし、

はやく来てから。ふん？

男3 ……うん。

男1 なんでよ。

男3 いや、……ごめん。

男1 (重なるように) なんてって聞いている。

男3 だから混んできたから、

男1 何時に出た？

男3 は？ えっと、じゆう……え、どこを？

男1 家をさ！ やーどこから来たば？

男3 あ、一応、前の仕事が、

男1 何時に終わった？

男3 ん？ 仕事が？

男1 そーだろ、ふつうに！

男3 えっと、あでも、あれ、一応まだあれ、厳密にはよ、あの、まだ？

終わってないっていうか、

男1 は？

男3 だから、前の仕事が、だからあれ、ちょっと、途中で、

男1 ……一応、関係ないからよ！ やーの前の仕事とか知らんけど、こ

ちだって大事なあれだからよ？

男3 うん、

男1 やープロだろ？ ふん？

男3 うん、まあプ、うん、そうだね、

男1 じゃあちゃんとやれ！

男3 うん……でも、

男1 でもじゃないだろ！ えー、こっちは金払ってるんですよ？ それで遅れるってないだろ！

男3 うん、

男1 なんば？ なに？ あれば？ 死神ってそういうあれ？ 業界的に時間とか遅れても大丈夫とか、そういう、なに？ 風土？

男3 いや、

男1 違うだろ？ もしそうだったらよ、まあそういう業界だったらそれこそ終わってるけどよ、もしそうだったらまだわかるよ、やーが遅れて来てもそういうあれならよ。でもじゃないんだろ？ じゃあやーがおかしいやつし！ っていうかなんでそもそも俺の前に仕事入ってるば？

男3 いや、あのお、(男1をやんわり指差しながら) 前から、

男1 じゃあなんで俺が頼んだ時言わなかったば？ その日できないですって。じゃなかったら、もしかしたら遅れるかもしれないって言えがいいやつし、一言。言えるだろ！ そしたら俺もいろいろ考えるし。急にそんなってなっても知らんし！

男3 ……すいません。

男1 金返せ。

男3 いやそれは、

男1 なんでよ、こっちは被害受けてるんですよ、やーが遅れてきたことに

よって！ 金返さんとかないだろ！

男3 ごめん。

男1 ごめんじゃないばあよ、ふん？

男3 うん、でもあの、規則で、

男1 は？ じゃあなに？ 泣き寝入りしれって話か？ ありえんだろ！ なんでよ！ なんでこっちが損しないといけんば！

男3 うん……でも聞いて？

男1 なに？

男3 一応、これ言ったら余計怒るかもしれないけど、

男1 なに。

男3 一応なんか、なんで怒ってるのかわからんっていう、

男1 は、やー、なに言ってるば？

男3 ごめんごめんごめん！ いやでも、二〇秒くらいしか遅れてんさ、

男1 え、やー舐めてるば？ 死神だからって調子乗んなよやー死なすよまじで！

男3 でもちゃんと仕事したさ。

男1 だから死なせばいいってもんじゃないだろって言ってるやつし！

男3 じゃあどうすればよかったわけ？

男1 タイミングがあつたばあよ！ 死ぬタイミングが！

男3 おん。

男1 だから、それでやろうってだったのに、やーがいないからできんかったわけよ！

男3 は？ なにを？

男1 だから、死ぬ時によ、パタッという、あれよ、あの、

手紙を男2の手元から取ってくる。

男1 これを渡してからパタツ、てやりたかったわけよ。

男3 渡してるさ、

男1 違う！ これはあれさ！ あの……じゃないさ！

男3 なにが？

【*1】

男1 だから、なんていうの……これを……パタツ……て感じで、

男3 え、でも渡したんでしょ？

男1 渡したよ？ 渡しけど！ 違うさ！

男3 だからなにが違うわけ？

男1 渡した瞬間にそのまま、っていうのーがやりたかったのに俺は。でもやーがあれだから、渡した後もなんか、シーン、みたいな。なに？

みたいな感じになってから困ったわけよ。

男3 ……わからんやつさ。

男1 じゃああれ。もっかいやらせ。

男3 は？

男1 だから死ぬ前に戻せ、最初に。

男3 いや、無理やつさ。

男1 なんでよ！

男3 いや、ないでしょ。

男1 なんでよ！ 意味よ、やーのせいで俺は迷惑かかってるんど？ わ

かかってるば？

男3 いやでも俺ちゃんと仕事したさ？

男1 え、やー知り合いだからってあれだよ？ 俺客だよ？ 金払ったん

だからちゃんと最後までやれ！

男3 だからやったさ！

男1 客がこんなって言ってるのにシカトするとかあるば？ できるだ
ろ？

男3 なにが、

男1 戻すの。

男3 できん。

男1 嘘つくな！ できんとかないだろ！

男3 いや、できるよ？ やろうと思えばできるけど、

男1 じゃあやれ！

男3 能力的にはよ？ でも、法的によ、

男1 死神に法律とかないだろ。

男3 いや、法律とかそういうあれじゃなくて、

男1 意味よ、やーが法律がとか言ったんやつし！

男3 言ったけど、

男1 違う、すぐ終わるし！ 死ぬ一分前、もいらんかな。三〇秒前から
いからやってから……これを……パタツ……で終わってる。こん
だけさ。

男3 こんだけさって言われてもよ、……

【*2】

男2が立ち上がり、客席に向かって話し出す。

男2 えつとあのー、なに？ えつといまあのーやってるあの、この戦い？みたいな。喧嘩？ あるじゃないですか。でなんかあの、死んでるんですよ、死んでて、あ片方だけ。で、その片方、あなんかもう片方も生きてるっていうあれじゃなくて一応死んでる、んだと思うんですけど、あのーあれ、死神なんで、（男3を指し）こつちがね？ 一応死神だから死んでるっていう認識の方があれかもしれないんですけど。て言ったらじゃあ、あれですね。両方死んでて、こつちもこつちも。で、あのー太ってる方がいまさっきまでは生きてて、で、いま死んで、っていう、あのー……わかります？ わかりますよね？ 見えましたよね、一応。なので、そんな感じでやってて。

男2 で、いまやってるあれは、この死んだ方の、が、なんか死に方が「うん」みたいな。なんかもっといい死に方したかったなあみたいな、なんかそういうアレでしに言ってきて、でなんか、でも死神からしたら「は？」みたいな。意味よ死んだからいいやつし、みたいな。なんかそういうのでなんかなくて、で、でっていうか、なんか俺も「にりー」みたいな。こんな目でやってたらなんか、なんかシカトするのもなあ、とかってなって、でもなんか急に首突っ込んだらアレかなとかもあって、だからなんかもうにりーみたいな。でも――

【*1】【*2】同時進行。

男2、急に咳き込む。（だが、うまく咳き込めない）

男1と男3、会話が終わると、男2が話すのを見ている。

男2 あの、いまこれは俺が咳き込むっていうあの、シーンがあって、で、咳き込んだままそのまま死んでいくっていうシーンがあるんですね、ストーリー的な話の流れとしてそういうのがあって。で脚本では、一応俺が書いてるんですけど、ここで「男2、急に咳き込む。なかなか治らず苦しそう」っていうふうに書いてあって最初ト書きで。で本当は、最初俺がいまやってるこの役は俺が普通にやるってだったからいいんですけど、稽古したらやつぱ男2は徹がいいやんに？ っていう、であいつも「あ、いいぜー」みたいな。でもやってみたら、徹が「俺死に至る咳なんてできんぜ？」とかって言い出して。一応やれとかって言っても、「コホーコホー」みたいな感じでやりだして。なんかもう「は？」みたいな、こつちからしたら。「一応やーがいいぜって言ったんやつし」みたいな。したら徹は、あいつこれしつち言うんですけど、一応これ俺が徹にギャグとして言ったやつなんですけど、なんかあいつそれをパクってやたらいるんな人に言ってるんですけど調子乗って、なんか「一応俺キムタクだからよ」みたいな。「キムタクって、何やってもキムタクやつし？ ドラマとか映画とか、なにやっても全部キムタクだからよ。全部俺色に染めるみたいなところあるからよキムタクは。俺もキムタクだから、何やってもトオルーだからよ俺は。一応なんかやつたーちゃんと演じれとか言うけど、俺トオルーだからトオルーしかできんからよ！」って言ったたら、拓也がなんか「黙れ！」みたいなことを言うんですね。まあ冗談ですけど。

一応拓也はなんかそういうツッコミたがりみたいなのがあるんですけど、まそこが可愛いんですけどね。

男2 で一応、その日の稽古はそれで終わって、で次の稽古の日に俺が、元々はその日は二〇時から稽古やるっていう話だったんですけど、でも当日の昼くらいにやっぱ二十二時半からに変更ってことになって、したら夜ちよつとだけ時間ができたからお酒飲みたくなるじゃないですか、お酒飲まないとやっつけられんみたいなことになって、でビール飲んで普通に、したら「ああこれも稽古無理やっさ」ってなつて拓也にお願いして今日はお酒飲みたいから稽古休みにしませんかっていったけど速攻「ダメ！」ってきて「ガチョーン」みたいな感じでも粘ってたら、「じゃあ今日休みでいいから、やーちゃんと咳き込む練習しとけよ。できんかったら殴るからよ」とかって言うからお家でちよつと練習してみたんですけど、「やっば無理やっさ」って思つて。

男2 だから次の稽古のとき、始まるときに拓也が速攻で「やー咳き込めんかったら殴るからよ」って脅し始めたんですね。拓也はそういう、過度に脅したりとか怒ったりとかする奴なので、でも本当は殴らないつてのを徹は知ってるんですけど、そういうふうにつてくる奴なんですよ。だから徹は別にその時はなんも感じてなくて、そもそもちゃんと咳き込むつもりもなくて、「だつて俺できんし」つて開き直るのが徹のスタンスというか。だからさつきみたいな「コホーコホー」つていう咳をして、したら拓也もう「いいよじゃあそれで。脚本の方を変えよ」つて言っているまこういう脚本になつてるんですね。だから徹のセリフは、徹のセリフつていうか男2のセリフは本当はもつと短

かつたんですけど、でもこんなに長くなってしまつて。「引き合わんやっさ」つて徹が言ったら、拓也が「やーがコホーコホーとかやるからど！」みたいな過度に怒つたから、拓也過度に怒ると怖いんですよ。ずつと長いこと友達だけちよつとビビるくらいの感じで、だからもう仕方なく言うこと聞かつてことになって、こうなつたんですね。なつたんですけど、やっば拓也的には、徹はどうせちゃんとしてセリフ覚えれんからな〜みたいな感じに思つたらしくて、なんか突然俺に連絡きて徹の代わりにやっつけくれんか？みたいな。だからいまから、俺が徹の役で、というか『徹が演じる男2』として、なんかモノマネしてる人のモノマネみたいな感じですけど、一応それで「コホーコホー」つてやるんですけど、これは咳をしてるつていうふうにつて見えてください。で、苦しんで死んでいくので、そういうことだと思つて見ててください。じゃあ、いきます。コホコホコホコホ（咳き込む）

なかなか治らず、苦しそう。

次第に立つていることもできず、地面にへたり込んでしまう。

男3、その様子に気づき、側に寄る。

男1、静かに去る。

男3 え、だ、え？ え、大丈夫ですか？

男2（咳き込みながら）ピュー——

男3（聞こえない）はい？ ん、なに？ もう一回。

男2、喋ろうとするが、さらに咳き込んで苦しそうになる。

男3 は？ 大丈夫か？ あの！ 大丈夫？

男2 こ、……

男3 なに？

男2、ポケットに手を入れて手紙を取り出そうとする。

男3、走ってやってくる。

男2 ……パタッ（と倒れる）

間

男3 はい？ は、なに？

男2、起き上がり、

男2 ちょっと早い。

男1 あ、早いっすか。

男2 うん……早いね。まだ手紙出してなかったからね。

男1 あ、そうなんですか。あ……

男2 え、見てた？

男1 はい？

男2 ちゃんと死ぬタイミングとか、ちゃんとあれした？

男1 あ、一応……。

男2 ああ……え、ああ……え、本当に見てた？

男1 あはい。

男2 したよね俺、あのお、タイミングの話とかね。

男1 はい。

男2 え、俺、手紙出してからって言ってなかった？

男1 ああ、出して、から……あ、ポストに？

男2 違う違う違う。あの、俺がポケットからこうしたら、っていうふう

に言ったと思うんだけど。

男1 ああ……

男2 え、じゃなかった？

男1 あいや、たぶん、はい……

男2 ……え、これ……あの……え、これあれだよ？ あの……あの、

やり直しとかできるよね？

男1 ……というと？

男2 は、嘘？ え、もう一回やるのってできないの？

男1 ああ……はい？

男2 もう一回死ぬの——

男1（同時に）なにがで……なにがですか？

男2 もう一回死ぬ場面を、もう一回やりたいんだけど。

男1 ああ……

間

男1 ああ、じゃあいいっすよ。

男2 あ、できるの？

男1 あ、まあはい。

男2 じゃあ早く言つて！

男1 あ、じゃあどこから……

男2 手紙出すちよつと前からやるから、

男2、男3に体を預ける。

顔を上げ、

男2 手紙出して、「これを」って言つてから、来て。

男1 あ、はい。

男1、引つ込む

男2、咳き込む。

男3 大丈夫ですか？

男2 こ、

男3 なに？

男2、手紙を取り出す。

男2 (男3に手渡しながら) これを……

男1、来る。

男2、パタッ。

男3 はい？ え、なに？

間

男3、受け取った手紙を読む。

男1 こんなでいいですか？

男2 (起きながら) まあ……でもどんなかな？

男1 あ、でも良かったですよ……と思いますよ？

男2 うーん、なんか思ってたアレと……

男1 でも、いい感じでしたよ。

男2 うん、まあ、じゃあこんな感じで、

男1 あ、はい、お疲れさまでした。

男2 お疲れさまです。

男3 (立ち上がり) あのさあ、これちよつと聞きたいんだけど、

男2 はい？

男3 これね、一応さ、この通り読んで欲しいってことだよね？ (手紙を二人に見せる)

男2 (見ながら) ああ、はい。

男3 でも思ってたんだけどさ、あ、ごめん大丈夫いま？

男2 あ、全然はい。

男3 本当に？ なんか喋ってなかったいま？

男2 あでも全然あの、あれなんで。な？

男1 あ、はい。

男3 え？ っていうかき、あのー、あなたは、あなたたちはなにその、死んでるの？

男2 まあ一応そういうあれではあるんですけど、

男1 あでも自分は、あの、死んでるっていうより、なんかその、管理み
たいな、

男3 え、本当に死神なの？

男1 ああ、一応は……、

男3 はあ……

男2 (男1に) え、あ、えっとこの後とかなんか、

男1 あ、そう、ですね。あ、えっと、

男2 え、どうすんの、死んだ後。

男1 いや、特に……、

男2 は？ え、決まってるじゃないの？

男1 あ、たぶん自分で好きなことかいいいと思えますよ。

男2 あ、そうなの？ じゃあなに？ 天国とか行かんでもいい？

男1 あ、天国とかはあの、一応あれがあつて。なんか貯金とか何千万以
上とか、なんかそういう……

男2 は、なにそれ？ え、そうなの？

男1 なんか、はい。

男2 まあいいけどさ、別に行く気なかったし。え、じゃあ家帰ってもい
い？

男1 はい。

男2 あ、じゃあもういま帰っても大丈夫？

男1 あ、はい、全然。

男2、軽く会釈し、立ち去ろうとする。

男3 え？

男2 (立ち止まり振り返る) ん？

男3 え、帰るの？

男2 え？ あ、はい……はい？

男3 は、これ俺が読んだよね？

男2 あ、お願いします。

男3 え、ちよつと待って。これあれだよ？ この、なに？文章？ ナ
レーションっていうのこれ？ の内容ってさ、あれでしょ？ あなた
が死に方に不満を持って、もう一回死ぬところをやらせてくれて
いうあれを、お願いしてるってことの説明でしょ？

男2 はい。

男3 え、じゃあ帰っちゃダメさ。

男2 はい？

男3 え、じゃあ、あなたは死神にお願いしてないといけないってことで
しょ？

男2 え、なにを？

男3 だから、もう一回死なせてくれってお願いしてなきやダメさ。

男2 あ、でももうあれ、あの、やったんで、やり直し。

男3 え、じゃあこれ読まなくてよくない？

男2 はい？

男3 ……え、これなに？

男2 え、カンペ。

男3 え、なんで俺に渡したわけ？

男2 俺死にそうだったんで、したらこのあれ読む人いなくなるじゃないですか。

男3 はあ？……（男1に）え、どゆこと？

男1 ああ、……

男3 え、なに？ どうしたらいいの？

男2 いや、俺はちよつと……

男1 自分もあんまり……

男3 はあ？

男2 すいません、お先です。お疲れさまです（去っていく）

男1 あ、じゃああの、自分も（去る）

男3 ……は？（観客に）っていう感じで、この劇は終わりです。ありがとうございます。

照明C・O

了